

2018年5月31日

課題名： 進行非小細胞肺癌に対する PD-1阻害薬投与後の  
化学療法の有効性や安全性を検討する後方視的多施設研究

◆研究の目的と概要◆

本研究は、肺癌治療における PD-1 阻害薬投与後の化学療法の有効性・安全性を調べることによって、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

・肺癌に対して1次治療として細胞障害性抗癌剤が施行されたのちに2次治療としてオプジーボ（ニボルマブ）又はキイトルーダ（ペンブロリズマブ）が施行され、さらにその次の治療として、2015年12月1日から2017年7月31日までにドセタキセル、ペムトレキセド、S-1又はドセタキセルとラムシルマブの併用療法が開始された方。

・肺癌に対して1次治療として細胞障害性抗癌剤が施行されたのちに2次治療として2014年4月から、2017年7月までの間にドセタキセル、ペムトレキセド、S-1又はドセタキセルとラムシルマブの併用療法が開始された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

生年月日、年齢、性別、組織型、根治的治療内容、喫煙歴、既往歴、合併症、遺伝子変異の有無、PD-L1発現状況、臨床病期、ニボルマブ又はペンブロリズマブ治療内容、化学療法内容、生存情報、全治療内容

◆研究方法◆

上記情報を、患者さんの氏名などがわからないようにしたうえで、下記機関に対して郵送で提供します。

◆主な共同研究機関及び研究責任者◆

近畿大学林秀敏医師が主体となって実施しており、全国35施設が参加しています。

主体のホームページ <http://www.wjog.jp/index.html>

- 
- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
  - \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

呼吸器内科 研究責任者     福田 泰    

E-mail： kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明